

大和市民活動推進補助金選考委員会・大和市協働推進会議

市民活動の成果を伝える報告会

2006年4月16日(日)

第一部 市民活動推進補助金 事業報告会 10:30~12:30

第二部 協働事業 事業報告会 13:30~17:15

第2回目にあたる市民活動推進補助金事業報告会と、第3回目大和市協働事業報告会が4月16日(日)、大和市勤

労福祉会館(鶴間)にて行われました。

まず市民活動推進補助金事業報告では、補助金を充てた事業内容についての説明とその成果についての話が聞かれました。そして協働事業報告会では2005年度協働事業の成果報告と、03年度と04年度の協働事業を行った団体

の方々を交えたグループワーク「協働事業のアルバムづくり」が行われました。

今回の「市民活動の成果を伝える報告会(以下、報告会)」の目的は、第一部においては、成果を公開の場で発表することにより活動を広くPRするとともに、今後の事業をよりよくするための意見交換を行う場として。また、第二部においては、個別の協働事業の成果を対話を通して共有するとともに協働事業の成果を見える形にし、あわせて大和

市全体における新しい公共のまちづくりの成果を振り返ることを目的としました。

こうした機会は、よりより協働事業の実現に向けて、共に学びあえる場として機能すると考えます。

さて、ここからは報告会で発表された概要をお伝えしていきます。

第一部：市民活動推進補助金 事業報告会

はじめに

第一部は大和市協働推進会議(以下、推進会議)の小杉委員の司会進行により始まりしました。

あいさつ

市民活動推進補助金選考会 平塚委員長よりあいさつ。

「補助金が有効に運用されていることを伺い、勉強していきたいと思う」ということをおっしゃられました。

プログラムの説明

市民活動課・小林さんから、今回の報告会の目的とプログラムの説明がありました。

各団体の報告：10分

選考委員との質疑応答：5分

参加者との意見交換

選考委員のまとめ、感想

めばえ1「『食育』に関する料理講習会、講演会」

補助事業者：食のアトリエ (補助金額：5万円)

・講師や保育士の方々の謝礼として補助金を利用。ブックレットの作成なども企画したことにより補助金ではまかな

いきれなかったのを、あわせて協賛団体も募集し、15団体から1万5千円の協賛金が集まった。そのほか会費等。

・小学校2校の協力を得、保護者向けアンケートを行うことができた。大和市のニーズに応えた講演ができたと思

う。

・残念なことは、会場を借りたい時期にすでに行政で押さえられてしまっている日が多かったこと。会場取りには大変

苦労した。

・これにより「食育」を若い世代に伝えたい。大和市子どもプランにも書かれている「食育」を育てていきたいと思

う。

主な質疑応答と感想

・会場の確保の難しさがひとつの課題として見えてきた。

・行政担当がわからなかったという点。

・公開選考会のプレゼンテーションでの方向性がよい形が変わってきているという点。

・素敵なブックレットの作成という形で、事業がよい方向での広がりをもって実施されたところはすごい。

・講演会を開いたあとで、「神奈川食育推進ネットワーク」に登録をし、農政

課とのつながりが必要ということがわかった。

・アンケートを行ったことで、大和市ならではのニーズを拾うことができた。

そのために、計画の変更が可能になったのだと思う。

めばえ2「大和市内の各施設・作業所などの福祉施設における情報バリアフリー推進活動。

楽しく、ためになる『優しく学べるパソコン・IT普及』訪問事業」

補助事業者：パソコンコミュニケーションアシスト ピコピコ(補助金額：5万円)

・3箇所の福祉施設にアンケートをお願いし、パソコンをやりたいという人をサポート。

・60日、102回の開催。一人15分単位で個別学習。

・この活動を通して、コミュニティの中で経験を活かしたプチジョブができるのではないかと、メニューを開始す

ることができた。

・福祉名刺の名刺作成に当たっては、作業に応じて図書カードをお渡しした。

・少しずつステップアップして、アイデア次第では障害者自らできることがある。

・コミュニティでの社会参加を目指したい。

・就労支援の講習会や老人ホームのホームページづくりのオファーがあるなど、事業にもつながりができてきた。

主な質疑応答と感想

・収支を見ると当初予算よりも決算が減っているのは事業が縮小したということか。

・人がいない、お金がないなどのご苦労を受けとめた。途中、フォローが必要と思ったことは何か。

・人的支援において、大学を回ってみるのはどうか。学生のボランティアや先生の協力が得られるのでは。

・継続的なサポートが必要に思う。辛抱強く、ぜひ多くの人に協力をいただいて活動を行っていただきたい。

・人的支援が足りないという一方で、個別カルテを作ったり、電気技術の本の購入によりお金が必要になった。オ

リジナルテキストを作りたいと思ったがそれができなかった。

- ・弱視の人のフォローができない(文字の大きなキーボードの必要性)。中途障碍の人は「身内に教えてもらうから」ということで、なかなか理解が得られないように思う。
- ・講座を受けても覚えられない、追いつけないという悩みがある。わからなくなったらお教えするというのを進めていきたいと思っているが。

はぐくみ1「羽黒トンボの調査」

補助事業者：引地川かわくだり実行委員会（補助金額：6万円）

- ・16年前から引地川でごみ拾いをはじめ、川下りを行ってきた。拾ったごみは行政が回収するなど協力体制ができている。
- ・行政も河川改修を行うなど、この16年間で川の環境を取り戻し、羽黒トンボが復活した。まさに新しい公共のシンボルであると思っている。
- ・羽黒トンボの調査が行えたことで、貴重な調査データを残すことができた。
- ・それにより絶滅してものが復活したことを証明することができた。これをきっかけに、絶滅を報告してくれていた人との交流も生まれた。
- ・活動を通じて、かつて泉の森に生息する動植物のカルタを作成された方との出会いが生まれ、紛失していたカルタを復元することができた。

主な質疑応答と感想

- ・川がきれいになったとは、素晴らしい活動をなさっていると思う。
- ・収支決算の分担金とは？
- ・報告書、パンフレットがステキな形にできあがっている。泉の森カルタの今後の活用を考えていって欲しい。
- ・「新しい公共の創出」の原点として、もっと市民の方々を集められるといいと思った。いい出会いもあるのでは。
- ・継続の一方でやめ時というもある。目標を決めて、裏づけする実績を見せて続けて欲しいと思う。
- ・分担金は、大和市民会議から分担金として受けた。
- ・泉の森カルタは「しらかしの家」で展示中。しらかしの家で使うとともに、学校教育の場でも使ってもらおうようになっている。

参加者との意見交換

『こうなったらもっとよくなるのでは？ というような励ましなどをお聞かせいただきたい』と、司会者から説明がありました。

- ・ピコピコさんの活動で、作業者の報酬はどういう形で支払われたのか。
 - ・寄付などでいただいた図書カード。
- ・補助金の使い道は。
 - ・消耗品費として使用した。
- ・有料でパソコンを教え、仕事をさせて報酬が寄付のものとは、地域ビジネスにしか見えないのが残念である。
- ・上記の議論は、市民活動の助成のあり方、非営利のあり方について考えるべきもの。そういう議論をした上で、市民の皆さんと共有すべきである。
- ・市に伺いたい。羽黒トンボの調査報告書を販売できたらいいなと思う。しかし、補助金をもらっているから売れないということになるのか？
- ・販売して収入を得て、次の活動につなげてはいけないのか？
- ・市民活動と収益団体のあり方は今後議論すべきである。市民活動が沸き立つ形で解決していけるように。
- ・引地川かわくだりの方に質問。収支決算で、分担金の分担元が当初と変わってきているのは誠実性に欠けるのではないか。
 - ・公開選考会で、特定の団体からの支援のみでは、継続性がなくなってしまうから、ひとつの団体に頼るのではなく、広く支援を求め、の方がよいとのアドバイスをもらった。それを受け、呼びかけを行い、賛同してくれた団体
 - ・個人から協賛金を得た。

選考委員のまとめ、感想

平塚委員長から「いくつか課題となるものが出てきた。臨時選考委員会を開き、議論を整理したいと思う」という話が聞かれ、総括として「これから補助金が潤滑油として活かされるよう願っている」という言葉で第一部は終了しました。

大和市民活動センターからの告知

- ・協働事業提案相談会の開催について
平成18年度の募集が始まった、市民活動推進補助金及び協働事業提案についての相談会を開催します。

詳細は市民活動センターのホームページをご覧ください。

第二部：協働事業 事業報告会

はじめに

第二部は大和市協働推進会議（以下、推進会議）の小原委員の司会進行により始まりました。

あいさつ

大和市協働推進会議 渡辺代表よりあいさつ。

「協働事業はレールのないところで手探りしながら走っている。皆様からの意見を聞いていきたい」というお話が聞かれました。

プログラムの説明

市民活動課・鈴木さんから、今回の報告会の目的とプログラムの説明がありました。

各団体の報告：7分以内（計45分）

グループワーク（1グループ3事業 計5グループ）：85分

グループワーク発表

まとめ

05年度提案事業経過発表

「市役所関連施設の忘れ物傘の再利用（リユース）事業」

協働事業者：二条通り商店街振興組合

市の担当：契約管財課、産業振興課、環境総務課

（事業者）

- ・傘のタグシールに入れる文言でもめたり、確定申告時期で作業が難航したりなどがあった。
- ・見えてきたこと（紙芝居風に発表）。「もったいない」からはじめよう。美容室の奥さんの一言から始まったこの事業計画。「行政はごみ減量、市民は利便性、商店街は貸したものが返ってくるのでお客さんがやってくる」というメリットに気づいた。
- ・始めてみて、行政における忘れ物傘だけではなく、市民の方からの傘のプレゼントがあった。うれしいこと。新しい関係が生まれた瞬間。
- ・この事業は「市民と商店街の相合傘」である。

（担当課）

- ・市は38本の忘れ物傘を提供した。
- ・引き続き、手を携えていきたい。

「高齢者の体力作り支援事業」

協働事業者：社会福祉法人敬愛会

市の担当課：高齢者福祉課

（事業者）

- ・大和市在住の高齢者の方に体力作り教室を行った。専門職不足のため、行政から保健師、理学療法士の協力を得た。
- ・半信半疑で参加していた高齢者から実感を持つようになったという声、また参加することが楽しいという声が聞かれた。
- ・全体を通して見ると、参加者の体力に改善が見られた。転びにくい体になった。

（担当課）

- ・大変有意義であった。介護予防のひとつとして有効であったと考えている。
- ・意欲・楽しさなどを感じていただき、生活に役立つ形になると思う。日常的に継続できれば。
- ・参加者は自立している人であったが、交流などの成果が上がっている。
- ・課題として介護予防の充実が期待される。

行政提案「防犯マニュアル作成事業」

協働事業者：防犯マニュアル作成チーム

市の担当：安全なまちづくり課

（担当課）

- ・当初3人の参加であったため、今後の参加者のためにも意見交換会をしてからということになり、防犯交流会を開催。

- ・子どもの防犯を目的に回を重ねるごとにまとまっていった。
- ・マニュアルを202部作成し、新一年生に配布した。
- ・マスコミなどにも取り上げられ、好評であったため来年3月末まで協定を延長した。
- ・参加しやすい進め方が課題である。

（防犯マニュアル作成チーム）

- ・自治会長をやっているが、自治会にも参考になる事業であった。
- ・進め方が駆け足であったが、初めての試みでもあり、回を重ねるごとにいい意見が出てきた。
- ・今後、学校の先生やPTAの方々にも協力してもらい、素晴らしいマニュアルを作成していきたい。

行政提案「道路環境美化ボランティアの里親制度（アダプト・プログラム）」

協働事業者：つきみ野まちづくり委員会、たのしい会・大和秋香会、東京電力㈱相模原支社大和営業セン

ター、NTT東日本神奈川県中央営業支店

市の担当：土木管理課

（担当課）

- ・みどり財団から花や樽の寄付があり、活動場所に花を植える活動等を行った。
- ・活動場所にはサインボードの設置。活動中は腕章をつけてもらうなど工夫。
- ・活動場所のおけるごみなどが見られなくなり、環境美化につながった。

（つきみ野まちづくり委員会）

- ・つきみ野駅前通り（鶴舞通り）の清掃活動などを行った。鶴舞通りのPRにつなげられたと思う。

（たのしい会）

- ・高齢者ばかりの集まりであるが、菊の会を開いており、菊の花が咲いたころ配布するという活動を行ってきていた。
- ・楽しみながら一緒にできる活動であり。集まって始めてみたら喜ばれるようになった。皆、喜んで手伝ってくれている。

行政提案「“ふくしの手 全員集合”」
協働事業者： NPO法人ワーカーズ・コレクティブ想、 パパボラやまと、 社会福祉法人敬愛会
市の担当： 福祉総務課

(担当課)

- ・協定締結後、定期的な調整会議を持つことができた。ご協力くださった方々には大変であったと思うが、担当者はこの会議を楽しみにしていた。
- ・福祉に関わっていない人を対象とした講習会の開催で、ワークショップで何ができるのかを考えてもらったが、その点では、コーディネーター役が求められているということがわかった。
- ・また人材の発掘、育成等さまざまな課題が浮き彫りになった。

課題を取りまとめて、Q & Aの冊子作成を行いたい。そして幅広いネットワーク作りにつなげていきたいと思う。

(NPO法人ワーカーズ・コレクティブ想)

- ・講習会をととても楽しく行えた。
- ・強い信頼関係が築けたと思う。信頼関係が一番大事。

(パパボラやまと)

- ・三者三様で分野が異なり、どう絞るのかといった話し合いを行ったが、飾らず話し合いをすることができた。それがチームワークにつながったと思う。

- ・これが第一歩。次につながるよう努力していきたい。

(社会福祉法人敬愛会)

- ・地域福祉推進の要となるものばかりであった。
- ・講習会に参加してくださった方がボランティアとなり活躍してくれている。
- ・より具体的に、いろいろな団体に働きかけてネットワークを広げられたらと思う。

グループワーク「協働事業アルバム作り」

これまで協働事業を行ってきた代表の方々に参加いただき、協働事業の成果を皆さんにみていただけるよう、グループで作業を行いました。

グループ

A：居場所市役所関連施設の忘れ物傘の再利用（リユース）事業

大和市の青少年に関する意識調査活動

子育てサポート事業

B：青少年支援悪い大人に負けないための法律講座

C A Pプログラム提供事業

青少年の自立支援事業

C：地域交流・連携防犯マニュアル作成事業

道路環境美化ボランティアの里親制度（アダプト・プログラム）

地域と学校の連携による大和市長谷中学校開放事業

D：高齢者・障害者支援高齢者の体力作り支援事業

移動制約者の外出介助サービス事業

人工透析ならびに身体障害者、高齢者の通院・外出支援サービス事業

E：人材育成・社会資源創出“ふくしの手 全員集合”

協働の拠点運営委員会

渋谷（南部地区）土地区画整理事業における事業用地の景観美化事業

グループワーク発表

グループワークの発表は、C、E、A、B、Dとできた順に行われました。

アルバムの最後に、満足度ということで「あの手この手マーク」を用いて、それぞれの事業者代表が満足度を表してくださいましたが、今後の希望を込めての満点だったり、まだ達成までに至っていないということで、辛口の満足度をつけられたりと、事業によってさまざまな思いが浮き彫りになったように感じました。

グループワークまとめ

「発表の内容・資料は豊かな成果だと思う。初めてのワークショップの仕組みであったが、それを乗り越えて立派にできたのは、それも成果だと思う。共通の考えや共有は難しいところである。これからコミュニケーションできるように一歩ずつ実を結んでいると思う」という言葉が林委員から聞かれました。

報告会まとめ

中村副代表から「今後も協働事業をよろしく願います」とのあいさつがありました。

お知らせ

協働事業提案募集

受付期間：4月1日（土）～5月19日（金）

協働事業提案相談会

協働事業提案に関する相談、提案書の書き方などの相談会を開催します。

場所：大和市民活動センター

日時：第1回 / 4月23日（日）9：00～12：00

第2回 / 4月27日（木）13：00～18：00

市民活動推進補助金申請

受付期間：4月1日（土）～5月26日（金）

提出書類等については市民活動課でお聞きいただくか、ホームページをご覧ください。